YAMAMOTO GENDAI
山　本　現　代
3-1-15-3F, Shirokane Minato-ku TOKYO 108-0072 Japan　tel&fax.81(0)3-6383-0626

天才ハイスクール・イントロダクション

天才ハイスクールとは美学校の僕のクラス（1年制、これまで3期）、といっても僕だって美術を学んだことがないから教えることがない。から仕方なく展覧会を連発させているうちに意外と面白くなってきて、いつのまにか次世代の若手グループのように大げさに見られはじめ、遂に、というか何故か、この度山本現代という格も信用もあるギャラリーでの展示という、身の丈にあうのか甚だ疑問な展開に突入した若者たちのことだ。
ていうかむしろ山本さんこそ物好きというか、うっかりすれば卒業制作展みたいな企画をコマーシャルギャラリーでやらせるなんて、すっかりギャンブル癖が抜けて大人になったギャラリー界においては貴重な現役だ。
ただ更に不安を羅列すると、実は 20～30 歳の彼らの多くはアートの見識があって美学校に来たわけじゃない。ゲルニカも知らなかったド素人から、教職を辞してまでエロい作品を作りに上京したやつまで、彼らのキャリアやアートとの距離はほとんどカオス(もちろん最近の若者らしく美術オタクもちらほらいるが)。それどころか毎年5人前後の少人数学級にもかかわらず、授業料を払わない輩が必ず何人かいる伝統…。と言ってもこちらも教えることが殆どないから文句はないが、とにかくあらゆる面でダメなのだ。
しかし不幸中の幸いといえようか、そんな彼らの特長ともいえようカスな環境やキャラクターは、割りきってみるとそう悪くはないもので、昨年神田の廃校全てを使って行なわれた中村政人さんプロデュースの TAT では、1 フロア全部をくまなく荒らし、自分をさらしきったエネルギーが少なからぬ美術関係者の高評価を得るという奇蹟に恵まれたりもした。七転び八起きというか、人生もアートも奥が深い。
とはいえその展示に現れていたグルーヴ感やクラスタ感、世の中との接触温度や角度からは、やはりただの 1 クラスというよりも何か激しいパッケージや方向性を当の僕にも感じさせた。
それは一体何だったのか？
この度山本現代での展示を前にして、流石に少々の説明責任を世間に感じた僕は、先日彼らを集めてそれをじっくり聞いてみた。それによると彼らの特長は大きく2つに分けられると思う。

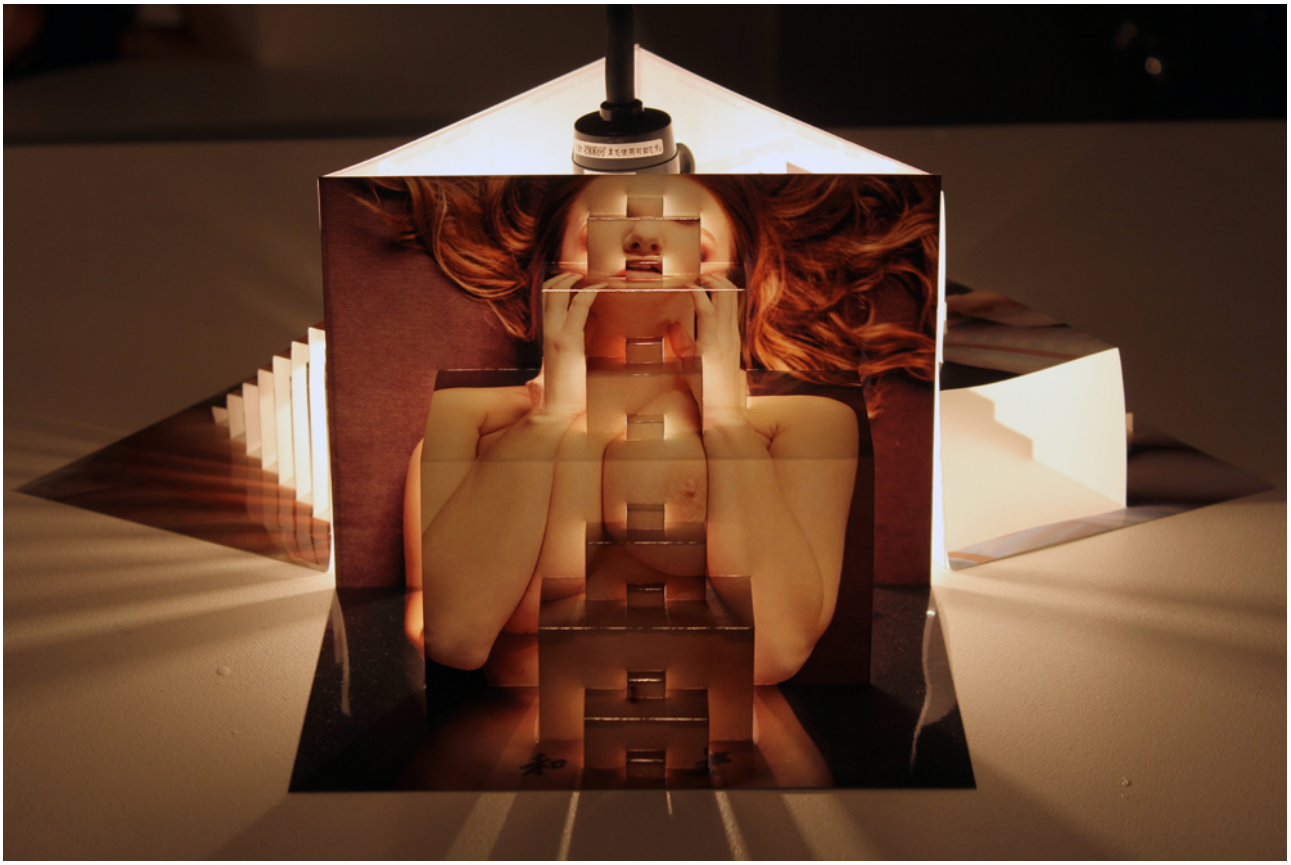
1. まずは普通に世代の話。
その昔、日本の現代美術は日本ゼロ年展をもってリセットすることを目論んだ。それから 10 年以上たった今、彼らの言葉を借りれば美術も社会も彼らのホームは「そもそもゼロだった」。そもそも不況の格差社会、こどもの時にイラク戦争。いよいよ大人になった彼らに追い討ちをかけるように金融バブルは崩壊し、アートバブルも昔の話、更に津波と原発事故で彼らの土俵は徹底的に荒れ地と化した。アート特有の欧米のグラマーはとっくに夢を失っていて、デジタルネイティブとしてカオスラウンジへの共感と挫折を垣間見た。彼らいわくそこは「没落しきった跡地のような日本」だという。
更に調子にのったことを言われてハッとしたが、世の美大と違って天ハイは、「低学歴が低学歴を教える」というまさに10年代的(貧困とは貧しさが遺伝した状態のことなんだそう)な構造なんだという。
そんな舐めたことを言われて「make sense!」とヘラヘラするしかない我が身を振り返ると…、マジで今からでも高卒の資格を狙ってやろうかと思いますね。
とにかく、ゆとり世代の多くが安定を欲して公務員を夢見るグラウンド・ゼロで、そんな空気にも馴染めなかった彼らはなるべくして「新しい生き方、新しい価値観を作る」意識を強く、高く持つようになった。周りが安定思考だったからか尚更それは強い。

2. そんな「新世代の動向」にカオスラや渋ハウスやオル太がいる。コミュニズム→会社経営からのコレクティビズム、といったアートと集団性を巡る世界的ブームの流れだろう。しかしそもそも天ハイはただのクラス名であり、カオスラや渋ハウスが持つ「ネット」や「シェアハウス」のような社会的なモチーフや方向性を共有してない。天ハイからスターが出ることは十分考えられるけど、コレクティブとして成り上がるような運動体ではない。
にも関わらず見え隠れする彼らの共通項は何なのか。エコ、アニメ、ストリート…、応えうる事象は無数にあるが、意外なことに彼らはそれら全部をすっ飛ばして、「美学校の伝統ですよ」と答えを出した。
僕は「なるほど」と頷きながら、その当たり前だけどトリッキーな話に強く興味を持った。さっきのアート dis と矛盾しながらも、日本の跡地での「新しい価値観や生き方」を、赤瀬川原平から会田誠や昭和 40 年会、そして Chim ↑ Pom に続くアートの何かに見いだそうというのだ。
それって前衛ってことですか？と恐る恐る死語を持ち出してみると、彼らは自らの真意を慎重に探るように、更にそれを「て言うより〈前線〉？」と言い直した。そしてその理由を「前線にはカスが送られるから（笑）」と言い切ったのだ。

僕はこの瞬間をもって、本展が良い展示になろうが卒業制作展になろうが、「どちらにしろ良い展覧会」になることを確信した。
「アートであろうとなかろうと」と会田さんは芸大のナイスな若手を例えたが、天ハイはちょっと違う。だってアートは彼らの新しい生き方の拠り所だ。それよりも似合う「どちらにしろ」感は、いよいよ本展でコマーシャルギャラリーの前線で闘う彼らが「勝とうが負けようが」、どちらにしろ…だ。そこに溢れる「カスとして戦う」自覚こそが、僕には誠実でヤバいものに見えるのだ。
前線という「ガチで闘わざるを得ない」かつ「何かの外側に一番近い」場所で、彼らは自らを明るくさらけ出している。公務員にもロックスターにもリアリティがない彼らの戦いはダサくて惨めなものかもしれない。でもだとしても、僕はそういう彼らが大好きだし、没落しきった跡地の日本に足りなかったものは、そんな「若さ（人としても国としても）」、そして「その責任を取る大人」なんじゃないかと思うのだ。若さがないところに成長はない。だから「勝とうが負けようが」、どちらにしろ前線での戦いが彼らにとって孤独なものにだけはならないように、微力ながら僕も応援したいと思う。

卯城竜太（Chim ↑ Pom）

YAMAMOTO GENDAI
山　本　現　代
3-1-15-3F, Shirokane Minato-ku TOKYO 108-0072 Japan　tel&fax.81(0)3-6383-0626



宮嵜浩「Cubitariun」2012 写真立体

大島嘉仁「ほのぼの系」2012 映像

株式会社山本現代　108-0072 東京都港区白金 3-1-15-3F tel/fax.03-6383-0626

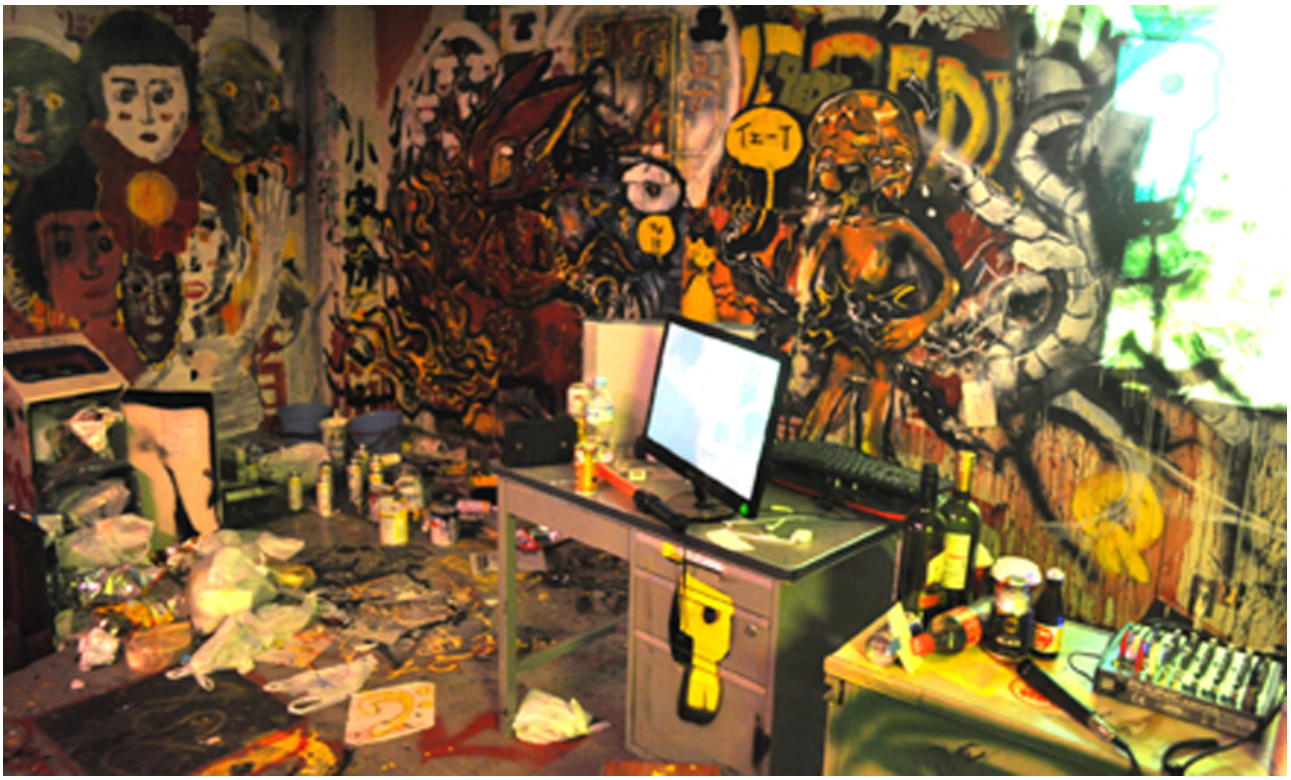
YAMAMOTO GENDAI
山　本　現　代
3-1-15-3F, Shirokane Minato-ku TOKYO 108-0072 Japan　tel&fax.81(0)3-6383-0626

臼田知菜美「一縁」2012 映像

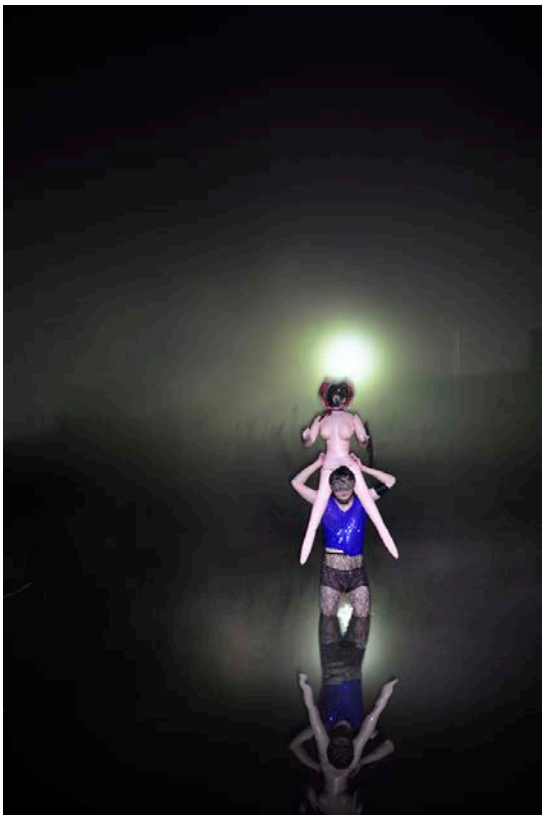
ケムシのごとし「ピーピッピの笛吹き」2012 映像

株式会社山本現代　108-0072 東京都港区白金 3-1-15-3F tel/fax.03-6383-0626

YAMAMOTO GENDAI
山　本　現　代
3-1-15-3F, Shirokane Minato-ku TOKYO 108-0072 Japan　tel&fax.81(0)3-6383-0626



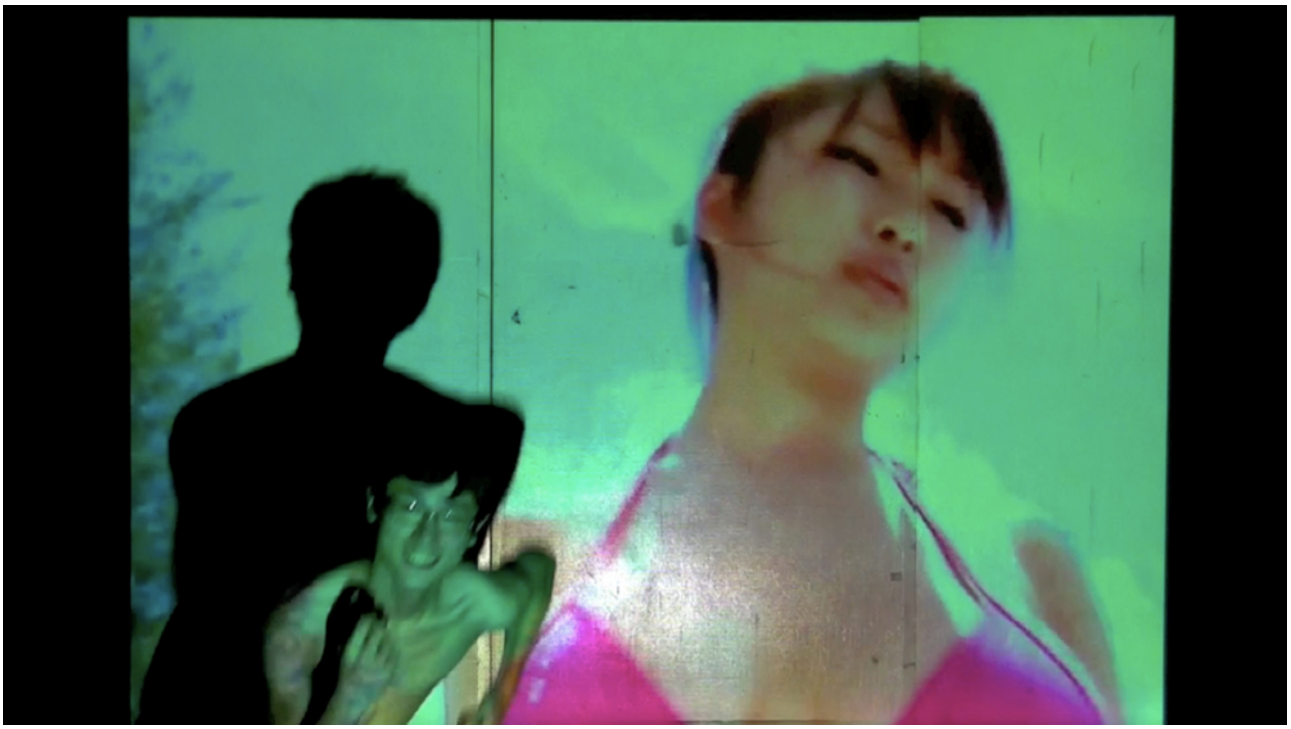
REDICA crew「REDICA 1 キル」2012 インスタレーション



石井陽平「mariko2」2012 写真

涌井智仁「かぞくのうた ~再生の remix~」2012 インスタレーション

YAMAMOTO GENDAI
山　本　現　代
3-1-15-3F, Shirokane Minato-ku TOKYO 108-0072 Japan　tel&fax.81(0)3-6383-0626



堅田好太郎「LOVER OF WATER'S EDGE－ 渚のランナー」2010 映像

西村健太「NOW LOADING…」2012 ミクストメディア

株式会社山本現代　108-0072 東京都港区白金 3-1-15-3F tel/fax.03-6383-0626

YAMAMOTO GENDAI
山　本　現　代
3-1-15-3F, Shirokane Minato-ku TOKYO 108-0072 Japan　tel&fax.81(0)3-6383-0626

キュンチョメ「New Japan Paradise」2013 写真、映像

株式会社山本現代　108-0072 東京都港区白金 3-1-15-3F tel/fax.03-6383-0626

天才ハイスクール・メンバー紹介 By 卯城竜太（Chim↑Pom）

■ケムシのごとし
1990年秋田県生まれ。東京在住。ハンドルネームで作家活動を行なう彼女は漫画とSNSで育ったポスト・オタク。連発するショートフィルムと漫画大好きな絵が超素直でみずみずしい。特に妙な音感覚と自らの主演で撮られるビデオは鮮烈で、意味不明なものから小ネタまで、一貫して10年代のリアリティに溢れている。その昔、花代さんと宇川さんの変なビデオにやられたChim↑Pom林くんの推しメン。

■石井陽平
1990年生まれ。東京都出身。メンバー随一のイケメン、しかもハードコアにファッションを学んだシャレオツ、なのにぶっちぎりのカス。TATではAKB好きが高じて松井玲奈に成りきってその愛の果てを探して「うんこする」というビデオとうんこの展示に全観客をどん引きさせていたが、本人はいたって超本気。その愛の深さに（自己）満足しきっていた。あだ名はダッチ。由来はダッチワイフから。

■宮嵜浩
大阪府出身。小学校教諭を経て何故か美学校入学。エロ・身体などをテーマに野外パフォーマンスとアートピース制作に励む。特にエロ画像を飛び出す絵本の要領で立体化した「キュビタリアン」、誰かのレントゲン写真と映像が流れるモニタをライトボックスの要領で組み合わせた「The ドローイング」など、他者の身体や人格を無視して切り刻むような危ないアートピースが好評。教師やめて良かったね。生徒たちが。と作品見るたびに思う…。

■中村奈央
1990年生まれ。高校を卒業後、展覧会の企画や手伝い、写真作品モデルをしながら、天ハイの展示場所・高円寺「ナオ　ナカムラ」のディレクター活動を開始する。モデルで有名なのは西野達さんのパンツ丸見えの逆さづり。「ナオ　ナカムラ」は客観的にもとても良い展示を連発しているが、何せ素人の乱からゼロ円で借りてる月3日限定のイベント型スペース。会期の短さからあまり知られていない場所。今回はダッチ（石井）の会期とかぶっているのでみなさんどうぞそちらにも。
http://naonakamura.blogspot.jp

■西村健太
1988年生まれ。埼玉県出身。天ハイ随一のハイセンスアーティスト。デザインの専門学校終了後に美学校に入校。たった一年でYBAばりにどアートなセンスを発揮しはじめた、天ハイには貴重な「コンテンポラリー・アーティスト」。そのきっかけになった作品は自分の精子を死ぬまで顕微鏡で見続け、その丸い映像を月に見立てた「moon」。その後の作品・入浴剤「バブ」で創った胎児やドクロを少しずつ溶かす「we always know」なども含め、実の弟を流産で亡くした思い出をベースに「生と死」が大きなテーマになっている。

■堅田好太郎
28才。主に映像を用いて、馬鹿馬鹿しくも万人に通ずる普遍的な自己愛と痛さに満ちた作品を制作。ポスト非リア充系アーティストとして、会田誠さんや松陰浩之さんはじめ、多くのアーティストに絶賛されている。剥き出し

なイタさともいえる自虐的な映像は、太宰治はじめ数々の文学的伝統から会田さんに至り、泉太郎くんやK・Kら「ネット以前」の引きこもりを通して、彼にバトンが渡っている。いわゆる中二病的に青臭いリアリティを醸し出している絵画も独特で、その活動全体から会田さんに「最悪の美術家」と評されている。

■キュンチョメ
最近メキメキと展覧会に呼ばれている男女ふたり組。ゲリラ的に野外で作られる作品が有名だが、展覧会場入口に設置された花壇（花を踏んでいかないと会場に行けない）、展示会場ならではなモチーフを探し集めてガチャポンにする作品など、サイトスペシフィックかつ強烈に倫理や記憶に訴えかける作品も多い。TAT では経団連のビルが見える 14 階の窓に「無職」と書するなど、社会的なモチーフと遊び心もかなりの特徴。メンバーは、ホンマエリ…「キュンチョメの元気な方。好きなタイプはダイオウイカ。将来の夢は モモンガ。ぴゅー」、ナブチ…「キュンチョメの暗い方。2001~2006 年までヒキコモリ。最近は魔法少女になりたいらしい。」、とプロフィールも全く意味不明。WEB http://kyunchome.main.jp/

■REDICA crew
2012 年結成のアートグループ。現在 8 人。メンバーは、岡志憧(映像・政治)、ブレラ(音楽)、佐瀬英(絵画・造形)、リトカメ(漫画)、膿生 海(漫画・ペイント)、くらげちゃん(身体)、荒川龍太郎(絵画)、ieki（絵画)。音、ペイント、映像、パフォーマンスなど、メディアを横断する表現を用いてアートの拡張を狙うコレクティブ。アートゲームから逸脱したメンバー個々人のクリエイティブな領域は、アートゲシュタルト崩壊の現象を通して個人の生活から社会まで直で繋がって行こうとする。

■志水佑
1990 年愛知県生まれ。本展のディレクター。10代からのアートや音楽オタク。入学早々に多摩美の彫刻科を中退しているが、そのさいに制作した「美なんてものは」という鉄板のレリーフは超名作。まさにアウラをかもしだしているが、当時の課題をきっかけに美術教育全体を Dis るように創られたその作品は、なるべくして教師との衝突を生んで美大を辞める宣言ともなった。アートの本質を考えすぎたせいで本展は自分の作品発表ではなく天ハイ全体のディレクションを努めることを選択。

■大島嘉仁
プライベートな母親との会話など、家族との他愛もないコミュニケーションをありのままに映しだすホームビデオを連発。「家族の風景は平和の象徴であり、家族平和は社会平和である」と考えている大島くんは超いいやつで、お母さんとのツーショットにいつも基本温かい気持ち（となんだか気恥ずかしい気持ち）にさせられるんだけど、その反面、たまに顔を出す身内へのSっぽさというか、例えば母親に無理難題を押し付ける「家族への介入感」にピリピリとした感じにもさせられる。

■臼田知菜美
入学時ゲルニカすらも知らなかった彼女だが、今や美術評論家・福住廉さんにキュレーションされるなど出世株の1人。喫煙者でもないのに喫煙所に赴き「すいません！」と言ってタバコをもらい集め、それを展覧会場の喫煙所で無料奉仕したり（作品名・SUIMASEN…解説：吸いません）、あらゆる業種の店（仕舞には刑務所にまで！）でトイレを借りて集めたトイレットペーパーをギャラリーのトイレで無料奉仕したり（作品名・TPO…トイレット

ペーパーお借りします)、街中の男性たちに「1円落としましたよ！」と言って裏にハートが描かれた1円を渡し歩いたり(作品名・1縁)…。愛嬌の良さと女子力の高さで今日も元気に活動中。

■涌井智仁

天才ハイスクールの核弾頭。天才的なノイズミュージシャンにして、かなりの理論派、変態、マジでウザいスキンシップが超迷惑。多摩美卒業。在学時にカリスマ美大生として雑誌に載ったのは、ひとえに派手な服装とキャラクターが目だってしまったからに違いない。しかしその才能はまさに青天井で、2年越しの付き合いながらいまだに上限を想像できない。天才ハイスクールの「天才」は、要は神でたとえると日本型(八百万的にひとりひとりに備わってる才能)を想定していたが、わっくんだけは見事に西洋型(オンリーワン・ゴッド)かもしれないと思いつつも、やる気の波と他人をなめてる感覚が自ら墓穴を掘ることもあるので、僕は大スベり or 大当てしか彼には期待しない。